

人文学部

日本・アジア言語文化学プログラム

取得できる学位 ★学士（文学）

■ プログラムの概要

アジアという地域の中で相互に影響しながら独自の文化を形成した日本・中国・朝鮮の、特に言語文化を学ぶ。アジア人としての自覚を涵養し、異文化に対する認識と共感・敬意を新たにしながら、日本語および日本語による文学作品に関する精細な知識、あるいは、中国語・朝鮮語の運用能力を身に付けることで、それらの地域の文芸に関する理解力を獲得することを基本的な目標としたプログラムである。上記の理解と能力に基づき、異なる価値観を持つ人々とも公正な立場で意志の疎通を図れるような、豊かな感受性と分析能力・表現能力を兼備した人材の育成を目指す。このプログラムを履修することで、国語または中国語の教員資格を取得することも可能である。

■ 人材育成目標

本プログラムでは、人間、社会、文化の多様性を学修できる環境を整えるとともに、次の7点に集約される基本的能力、態度、姿勢を有する人材の養成を目標に掲げています。

- ・人間、社会、文化に関わる諸問題を多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- ・社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- ・身近な課題の探究を通して、地域社会の発展に貢献できる。
- ・異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献できる。
- ・日本語および日本語による文学作品に関する精細な知識、あるいは、中国語・朝鮮語の運用能力を身につけ、異文化に対する認識と共感・敬意を地域社会に創出することができる。
- ・豊かな感受性と正確な分析能力・表現能力を身につけ、異なる価値観を持つ人々とも意思の疎通をはかり、新たな関係性を築いていくことができる。
- ・日本・中国・朝鮮の言語文化および相互の影響関係の理解を通じて、現代社会の諸問題に対処することができる。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) アジアの言語と文化に関する基礎的知識を身につけ、文献を精査するための技能と方法論を身につける。
- b) 日本語学および日本文学史、文学理論について体系的知識を得る。中国語および中国古典語、朝鮮語についての基礎的知識を前提として、文学や思想などの中国文化、朝鮮の言語文化と歴史との関係を理解する。
- c) 日本・中国・朝鮮の伝統文化の理解を踏まえて現代文化を探究する。
- d) 日本を含めたアジア全体の言語文化を俯瞰する広い視野を持つ。
- e) 現代社会の諸問題を考え、生きるための幅広い知識・視野を持つ。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 情報機器・文献・人的資源など、あらゆる情報ソースを操作・検索し情報を収集する能力を身につける。
- b) 日本・中国・朝鮮の言語資料や文学思想の文献を原文で批判的に読み解く。
- c) 互いの文化・価値観を尊重した議論を構築する能力を身につけ相互理解を目指す。

| 3 | 汎用的能力

- a) 英語及びその他の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。
- b) 様々な状況や立場を想像しながら、どこに問題があるのか見つけ出し、その問題の性質を明確に理解することができる。
- c) 問題の解決に向けて、情報を多角的に収集して分析し、効果的に活用することができる。
- d) 問題の解決に向けて、情報や知識を複眼的、論理的に構築することができる。
- e) 他者とのつながりを築き、互いを尊重しながら対話を営み、問題の解決に向けて協力することができる。
- f) 日本語や外国語、また適切なシンボルや手法を用いて、自らの考えを表現し、発信することができる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 人間、社会、文化に関わる諸問題に多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- b) 社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- c) 身近な課題の探究を通して、地域社会に貢献する。
- d) 異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献する。

■ プログラムの履修要件

- ・しっかりとした基礎学力と旺盛な学習意欲をもつこと。
- ・豊かな感性と強い関心をもって、学習にとりくむこと。
- ・1～2年次に「日本・アジア言語文化入門」（AまたはB できれば両方）を履修すること。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

人文学部では、授業科目開設にあたり、教養教育と専門教育の連携のうえに構築された学士課程教育のなかで、確かな専門知識と幅広い教養を涵養し、人文的実践知を育むことを目指している。